

令和6年第7回狭山市定例教育委員会会議議事録

開催日時 令和6年7月24日(水)
午後3時30分から午後4時17分まで

開催場所 市役所 5階 教育委員会室

出席者 教 育 長 滝 嶋 正 司
教育長職務代理者 古 谷 広 明
委 員 宮 崎 英 子
委 員 安 河 内 由 香
委 員 青 田 和 義

欠席者 なし

委員及び傍聴人を除くほか、議場に出席した者の氏名

生涯学習部長	五十嵐 和 也	次長兼教育総務課長	關 根 浩 由
社会教育課長	石 井 巳代子	中央図書館長	田 口 裕 昭
スポーツ振興課長	河 井 一 敏	学校教育部長	田 中 義 久
次長兼教育指導課長	宇佐見 昌 義	書 記	上 村 理 恵

会議の公開・非公開 公 開

傍聴者数 0名

報告事項

- ・前回会議で答弁保留とした狭山市教育委員会後援名義の使用行事について
報告者(社会教育課長)

(要旨)

前回会議で報告した後援名義の使用行事中、入場料等が無料の事業のうち、1番「おみせやさんごっこ／はじめての投資／こどもライフプラン」は、5月25日・29日に市民交流センター研修室で行われ、2日間で延べ4回開催され、25名参加した。2番「ロボット・プログラミング製作体験会」は、6月1日から9月28日までの間、15回開催し、参加者数は延べ86人を予定していることを主催者に確認した旨の報告がなされた。

- ・各種審議会等の会議結果概要について

報告者(社会教育課長)
(中央図書館長)
(スポーツ振興課長)

(要旨)

令和6年第1回狭山市立博物館協議会、令和6年度第1回狭山市スポーツ推進審議会、令和6年度第1回狭山市立図書館協議会の開催結果について、その概要について報告がなされた。

- ・狭山市教育委員会後援名義の使用行事について

報告者（社会教育課長）
（スポーツ振興課長）

(要旨)

社会教育課関係5件、スポーツ振興課関係2件の後援名義使用承認の申し出があり、審査の結果、使用を承認した旨の報告がなされた。

委員からの質疑等では、「ふるさと狭山の文化と歴史の情報発信及び伝統文化の啓蒙活動」の会場がにこにこテラス緑地内となっているが、具体的にどこで行われるのか。また、雨天時でも行うのかとの質疑に、具体的な場所は、所管であるみどり公園課からは、緑地内のどこで活動を行ってもよく、特定の場所は設定せず、多くの方に寄ってもらえるような所で行う旨主催者から聞いている。なお、雨天時は行わないと聞いている旨の答弁がなされた。「狭山平和のための戦争展」について、講演会入場料500円と有料になっているが、何のために有料としているのかとの質疑に、予算書から、会場使用料と講師謝礼金に充てることになっている旨の答弁がなされた。

議 案

議案第50号 令和7年度使用中学校教科用図書の採択について

令和7年度から中学校で使用する教科用図書について、第13採択地区教科用図書採択協議会の選定結果に基づき採択するため、提案がなされたものである。

まず、説明として、教科用図書採択の方法は、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律第10条から第17条によって定められており、共同採択地区内の教育委員会は、採択協議会の協議の結果に基づいて、種目ごとに一種の教科用図書を採択しなければならないことになっている。本市は、飯能市、入間市、日高市と第13採択地区の採択協議会を設置し、採択を行うこととされていることから、採択協議会での協議結果に基づき採択しようとするものである。なお、これに関して、教育委員会委員には、普段より学校指導訪問等で学校現場がどのように教科用図書を活用しているかなどを確認していただいているところであり、また、今回の採択に際しては、県教育委員会から出されている「令和7年度使用中学校教科用図書調査資料」及び、第13採択地区教科用図書採択協議会専門委員が作成した「令和7年度使用中学校教科用図書調査研究報告」とともに事前に見本本をご覧いただいたところである。令和6年7月18日、7月23日に第13採択地区の採択協議会が開催され、4市の教育長

並びに教育長職務代理者が出席し協議を行い、その協議結果に基づき、本市教育委員会として、令和7年度から使用する中学校の教科用図書について、別紙のとおり採択したく提案するものである。

続いて、7月18日と7月23日に行われた採択協議会での協議の内容と結果について、学校教育部長より以下のとおり報告がなされた。

今回の教科用図書の採択に当たって、中学校教科用図書については、各教育委員会委員に全ての教科用図書の見本本を7月4日と7月8日に内容をご覧いただくとともに、担当指導主事より発行者ごとの主な特徴等について説明を受け、意見交換を行い、これを踏まえて第13採択地区教科用図書採択協議会に臨んだ。採択協議会では、教科ごとに教科用図書の調査研究を行うために委嘱された第13採択地区の代表専門員から調査研究の結果報告を受け、それについて質疑を行い、協議会規約で規定されている方法により採択すべき教科用図書を選定することとする。

国語については、4者の教科用図書について、代表専門員からは、言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して正確に理解し、適切に表現する資質・能力を育成するための工夫等の観点から調査研究の結果報告があった。その後、この報告について質疑を行い、そして、委員による協議に移り、選定に関する意見がなかったことから、投票により選定することとし、投票の結果、情報活用能力を養う「情報×SDGs」という教材が設定され、デジタル端末用練習問題を掲載するなど、学習者に学習の見通しを持たせて、課題解決能力を身につけ、振り返りができる工夫をされている光村図書出版の「国語」が選ばれた。

書写については、4者の教科用図書について、代表専門員からは、書写の基礎的・基本的な知識・技能を習得させるための工夫等の観点から調査研究の結果報告があった。その後、この報告について質疑を行い、そして委員による協議に移り、選定に関する意見がなかったことから、投票により選定することとし、投票の結果、「目標」、「考えよう」、「生かそう」、「振り返ろう」の4段階で学習手順が明示され、学習者が主体的に学べるように工夫がされている教育出版の「中学 書写」が選ばれた。

社会の地理的分野については、4者の教科用図書について、代表専門員からは、主体的に問題解決を行う学習過程の工夫、重要語句の定着のための工夫等の観点から調査研究の結果報告があった。その後、この報告について質疑を行い、そして、委員による協議に移り、選定に関する意見がなかったことから、投票により選定することとし、投票の結果、「導入の活動」で単元全体を貫く「探究課題」を立て、1単位時間ごとに「学習課題」を解決し、思考ツールを使った「まとめの活動」で「探究課題」を解決するという学習の流れで構成されている東京書籍の「新編 新しい社会 地理」が選ばれた。

社会の歴史分野については、9者の教科用図書について、代表専門員からは、主体的に問題解決を行う学習過程の工夫、歴史に関する資料の見やすさ等の観点から調査研究の結果報告があった。その後、この報告について質疑を行い、そして、委員による協議に移り、選定に関する意見がなかったことから、投票により選定することとし、投票の結果、各章で「①課題をつかむ」、「②課題を追求する」、「③課題を解決する」というステップが構成され、それを基に学習を進められるよう工夫されている東京書籍の「新編 新しい社会 歴史」が選ばれた。

社会の公民的分野については、6者の教科用図書について、代表専門員からは、主体的に問題解決を行う学習過程の工夫、重要語句の定着のための工夫等の観点から調査研究の結果報告があった。その後、この報告について質疑を行い、そして、委員による協議に移り、選定に関する意見がなかったことから、投票により選定することとし、投票の結果、「単元の構成」で課題解決的な学習のプロセスが可視化され、学習課題、本文、資料、チェック&トライ等、紙面の要素を定位置に配置することで1時間の学習の流れが分かりやすい工夫がされている東京書籍の「新編 新しい社会 公民」が選ばれた。

地図については、2者の教科用図書について、代表専門員からは、地図帳を自由自在に活用できる知識や技能を身につける工夫等の観点から調査研究の結果報告があった。その後、この報告について質疑を行い、そして、委員による協議に移り、選定に関する意見がなかったことから、投票により選定することとし、投票の結果、世界、日本ともに「地形」・「気候」・「生活文化」、「自然災害」、「人口」、「資源」、「工業」、「農業」など見開きのページで学習内容はわかりやすく網羅されている帝国書院の「中学校 社会科地図」が選ばれた。

数学については、7者の教科用図書について、代表専門員からは、既習事項を基にした問題解決の過程の工夫等の観点から調査研究の結果報告があった。その後、この報告について質疑を行い、そして、委員による協議に移り、選定に関する意見がなかったことから、投票により選定することとし、投票の結果、数学的な知識を定着させるだけでなく、数学を活用して身の回りの問題を解決していく内容が充実している啓林館の「未来へ広がる数学」が選ばれた。

理科については、5者の教科用図書について、代表専門員より、各者の特色や安全面、観察、実験などに関する基本的な技能を身につける工夫等の観点から調査研究の結果報告があった。その後、この報告について質疑を行い、そして、委員による協議に移り、選定に関する意見がなかったことから、投票により選定することとし、投票の結果、単元配列が各単元の指導時期や内容の関連性を踏まえた配置になっており、生徒の科学的概念の形成に配慮されている東京書籍の「新編 新しい科学」が選ばれた。

音楽（一般）については、2者の教科用図書について、代表専門員からは、音楽の見方・考え方に結び付く主体的・対話的で深い学びについての工夫等の観点から調査研究の結果報告があった。その後、この報告について質疑を行い、そして、委員による協議に移り、選定に関する意見がなかったことから、投票により選定することとし、投票の結果、学習目標、活動内容、ポイント、音楽を形作っている要素が一目でわかるようになっており、音楽科における三つの資質・能力が確実に育成されるよう工夫されている教育芸術社の「中学生の音楽」が選ばれた。

音楽（器楽）については、2者の教科用図書について、代表専門員からは、音楽の見方・考え方を結び付く主体的・対話的で深い学びについての工夫等の観点から調査研究の結果報告があった。その後、この報告について質疑を行い、そして、委員による協議に移り、選定に関する意見がなかったことから、投票により選定することとし、投票の結果、各楽器の基本的な演奏方法について、丁寧な説明と豊富な写真を用いて取り扱っており、演奏技法の定着を図っていることや、教材も様々なジャンルを取り

上げることで生徒の多様な興味・関心を引き出している教育芸術社の「中学生の音楽」が選ばれた。

美術については、3者の教科用図書について、代表専門員からは、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「学びに向かう力、人間性」、「鑑賞」のそれぞれの観点における工夫について、調査研究の結果報告があった。その後、この報告について質疑を行い、そして、委員による協議に移り、選定に関する意見がなかったことから、投票により選定することとし、投票の結果、写真を大きく掲載し、凹凸のある印刷やQRコードによる360度作品、原寸表示など、視覚的に生徒の関心・意欲を高める工夫がされている開隆堂出版の「美術」が選ばれた。

保健については、4者の教科用図書について、代表専門員からは、身近な生活における健康・安全について理解し、保健に関わる基本的な技能を身につける工夫等の観点から調査研究の結果報告があった。その後、この報告について質疑を行い、そして、委員による協議に移り、選定に関する意見がなかったことから、投票により選定することとし、投票の結果、教科書とデジタルコンテンツがリンクしており、具体的な場面を伝える動画教材や画面をタップすることで試行錯誤できるシミュレーション教材などが充実しており、手軽にコンテンツを呼び出して学びを深めることができ、生徒が主体的に学べる工夫がされている東京書籍の「新編 新しい保健」が選ばれた。

技術・家庭の技術分野については、3者の教科用図書について、代表専門員より、生活上必要な知識や技能が身につく工夫等の観点から調査研究の結果報告があった。その後、この報告について質疑を行い、そして、委員による協議に移り、選定に関する意見がなかったことから、投票により選定することとし、投票の結果、実験や調べ学習が多く設定され、科学的な根拠をもとに技術を理解できるよう工夫されている開隆堂の「技術・家庭 技術分野」が選ばれた。

技術・家庭の家庭分野については、3者の教科用図書について、代表専門員より、家族や家庭、衣食住、消費や環境などに関する内容や資料、表記・表現についての工夫等の観点から調査研究の結果報告があった。その後、この報告について質疑を行い、そして、委員による協議に移り、選定に関する意見がなかったことから、投票により選定することとし、投票の結果、生活の中で課題を考える場面が多く設定されており、各頁に関連した資料や豆知識が掲載されていることで生徒が主体的に学習に取り組めるよう工夫されている開隆堂の「技術・家庭 家庭分野」が選ばれた。

英語については、6者の教科用図書について、代表専門員からは、単元構成、聞くこと、読むこと、話すこと（やり取り、発表）、書くことなどのコミュニケーションを図る資質・能力を育成するための工夫等の観点から調査研究の結果報告があった。その後、この報告について質疑を行い、そして、委員による協議に移り、選定に関する意見がなかったことから、投票により選定することとし、投票の結果、八つの「Our Project」の配置によって、3年間の達成目標を明確にしており、各単元でスモールステップを積み重ねていく構成になっていて、ストーリーが一貫していて、豊かな感性を育む幅広いジャンルの題材が豊富である開隆堂の「SUNSHINE」が選ばれた。

道徳については、7者の教科用図書について、代表専門員からは、考え議論する授業に向けての多種多様な教材、生徒の心の成長を導く工夫等の観点から調査研究の結果報告があった。その後、この報告について質疑を行い、そして、委員よりによる協

議に移り、選定に関する意見がなかったことから、投票により選定することとし、投票の結果、生徒たちが興味を持って教材と出会えるような工夫や話し合いの時間を確保するための教材の工夫や気づいたことや他者の発言などを書き込む工夫がされている東京書籍の「新編 新しい道徳」が選ばれた旨の報告がなされた。

委員からの質疑等では、教科書の採択にあたり、教員の声はどのように把握しているのかとの質疑に、各中学校の教員は、教科書展示会等に参加し、教科書の研究を行っており、その研究結果は、採択協議会事務局で集計され、採択協議会でも参考資料として結果を提示したため、教員の声を把握できたものと考えている旨の答弁がなされた。

小学校と中学校の教科書発行者の違いにおける懸念点はあるかとの質疑に、代表専門員からは、その点も念頭に研究したが、どの発行者も同様に小学校からの接続を意識して教科書がつくられており、問題はないという報告であった旨の答弁がなされた。

SDGs についてだいぶ世の中に広がってきたと思うが、各者、SDGs についてどのように触れているかとの質疑に、SDGs については、各者、意識した記載があり、教科の特性に基づき、それぞれの視点で生徒が自分事として考える記載の工夫があった旨の答弁がなされた。

教員の声の把握について説明があったが、地域の方々からの意見はどのように把握しているかとの質疑に、教科書展示会で提出された意見などについては、先日の採択協議会で参考資料として提示されたことにより把握している旨の答弁がなされた。

現行の学習指導要領では、各教科を通じて言語活動の充実に重きを置いているが、この点について、各者ではどう配慮しているかとの質疑に、各者とも言語活動に十分配慮しており、グループで話し合う、説明する、レポートを作成するなどの場面を設定し、自ら考え、判断し、表現する力を育成するように工夫されている旨の答弁がなされた。

主体的・対話的で深い学びについて、各者ではどう配慮されているかとの質疑に、各者とも、主体的・対話的で深い学びができるような学習過程を設定しており、生徒が自ら課題を発見し、問題解決的な学習を取り入れ、生徒同士で話し合うなどの活動を取り入れている旨の答弁がなされた。

授業の中でも 1 人 1 台端末というふうにデジタル化が進んでいるが、教科書の中において各者違いがあるかとの質疑に、各者、QR コードの数が増え、生徒がタブレット端末を使用して、資料や関連動画の視聴を手軽に行えるようになっている。また、各者、指導に活用できる、生徒が家庭でも学習ができるように内容が工夫されているという報告があった旨の答弁がなされた。

各教科について、具体的な投票結果はどうだったかとの質疑に、採択当日は 8 名での投票が行われ、その結果、国語は、光村図書に 8 票、書写は、教育出版に 6 票、光村図書に 2 票、社会科の地理は、東京書籍に 8 票、歴史は、東京書籍に 8 票、公民は、東京書籍に 8 票、地図は、帝国書院に 7 票、東京書籍 1 票であった。数学は、啓林館に 8 票、理科は、東京書籍に 8 票、音楽の一般は、教育芸術社に 8 票、音楽（器楽合奏）は、教育芸術社に 8 票、美術は、開隆堂に 8 票、保健体育は、東京書籍に 8 票、技術家庭の家庭分野は、開隆堂に 7 票、教育図書に 1 票、同じく技術家庭の技術分野は、開隆堂に 7 票、教育図書に 1 票、外国語は開隆堂に 8 票、道徳は、東京書籍に 8

票であった旨の答弁がなされた。

議案第 50 号については、原案可決した。

以 上